広報展示室 Koho Gallery

第43回

― 春季特別展 ―

日本の四季　名所江戸百景展

歌川広重（1797～1858）は、晩年に「名所江戸百景」（大判120枚揃　安政３年～安政５年改印　版元：魚屋栄吉）の大作を制作しました。この作品は初代広重が118枚、二代広重が１枚、目録１枚の120枚揃いです。初代広重はこの作品制作中に歿（ぼっ）してしまいますが、もし生きていたら120枚を越えた大シリーズになったといわれています。

図は「名所江戸百景　亀戸梅屋舗」という広重の代表作です。場所は亀戸天神の裏にあった梅園で「清香園」といいます。広さが約3600坪、その中に約300本の梅がありました。中でも図の梅は有名で「臥龍梅（がりゅうばい）」と呼ばれ、高さ約３メートル、幹の太さ約1.6メートル、その周囲を蜷局（とぐろ）を巻く様に巾９から11メートルの枝が伸び、龍が休んでいる姿に見立てました。

構図は近景の枝をクローズアップしたため、画面を構成する上で邪魔ではないか思うほど大きく描いています。左側の細い柱の上の札には「臥龍梅」と書かれています。この作品を見たゴッホは自由な構図や色彩に感動し模写したといわれます。

この度は、広重風景画の集大成「名所江戸百景」を前期後期の二期に分けて全作品を展示いたします。150年以上前の日本の四季をお楽しみ下さい。

馬頭広重美術館　学芸員　市川信也

【会　　期】　前期４月17日（金）～５月17日（日）
後期５月21日（木）～６月21日（日）

【記念講演会】　５月10日（日）
広重と「名所江戸百景」について
講師：市川 信也（当館学芸員）

歌川広重「名所江戸百景　亀戸梅屋舗」

※広重の最後の大揃物「名所江戸百景」の画技の確かさ、新しい作風や大胆な構図を通して広重を紹介します。広重の作品に描かれた江戸と150年後の都市に変貌した今日の東京の姿を写真で比較します。

【ミュージアムトーク（展示解説）】
午後１時30分～　当館学芸員
前期４月18日（土）　後期５月23日（土）

【開館時間】　午前９時30分～午後５時まで
（ただし入館は４時30分まで）

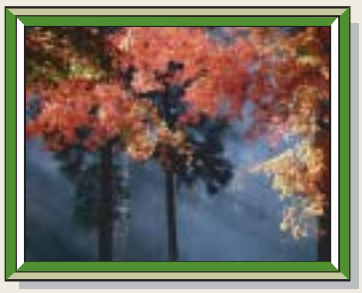
【入 館 料】

大　　人	700円	（630円）
高・大学生	400円	（360円）
小・中学生	100円	（90円）

※平成21年４月から町内の小中学生は、入館料が無料になりました。
※（　）は20名以上の団体料金。70歳以上、小学生未満は無料。障害者手帳をお持ちの方・付き添い１名は半額。

小川写真クラブ作品展

3月10日から15日の間、馬頭広重美術館ギャラリーで開催された「小川写真クラブ作品展」33点の作品の中から那珂川町の作品2点をご紹介します。



「斜陽の彩」　青木信夫さん（小川）

ミニギャラリー

「白鷺の楽園」　岡 典子さん（北向田）

No.43　平成21年4月10日号　●編集／企画財政課　☎0287-92-1114　Fax0287-92-1316
●発行／那珂川町役場／栃木県那須郡那珂川町馬頭409　URL　http://www.town.tochigi-nakagawa.lg.jp

PRINTED WITH SOYINK この印刷物は、「環境にやさしく」をモットーに大豆油インキを使用しています。
R100 この印刷物は、古紙配合率100%再生紙を使用しています。